

環境白書の刊行にあたって



令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、最大震度7を観測する、未曾有の大災害となりました。この地震により、上下水道などのライフラインや、道路、河川、漁港などインフラ施設が甚大な被害を受け、さらに、広範囲に渡る液状化現象や地盤隆起など、過去に類を見ない地形変化も発生しました。また、地震による大きな傷が癒えない中、続けて9月には令和6年奥能登豪雨が追い打ちをかけるように発生し、極めて異例な複合災害となりました。

能登半島地震の発生以降、国内外から温かいご支援を賜り、インフラの復旧や公費解体、災害廃棄物の処理など被災地の復旧・復興を進めております。引き続き、1日も早い創造的復興に向けて全力で取り組んでまいります。

能登は、人口減少と高齢化が急速に進んできた地域であり、復興に際しても、今後の人口減少を見据える必要があります。一方で能登には、壮大な自然環境や里山漁村の原風景、里山里海に育まれた多様な生物資源といった固有の魅力があります。これらの能登の特徴を踏まえた復興には、先進技術を活用したインフラ整備や、自然環境の保全・利活用といった、環境面からのアプローチが必要不可欠です。

そこで、本年6月に策定した「石川県創造的復興プラン」では、環境政策分野のリーディングプロジェクトとして、『自立・分散型エネルギーの活用などグリーンイノベーションの推進』や『トキが舞う能登の実現』等を掲げております。インフラ基盤の強靱化にあたり、自立・分散型の「点でまかなうインフラ」を選択肢とするなど、能登地域のグリーンイノベーションに向けた先進的な取組を検討していくとともに、能登復興のシンボルとして、トキが半世紀ぶりに石川・能登の大空を舞うという夢の実現に向けた取組を進めてまいります。

こうした中、国から、早ければ来年度に本州での放鳥地を決定し、令和8年度に放鳥を実施するとのスケジュールが示されました。これを踏まえ、本年8月に、能登地域トキ放鳥受入推進協議会を開催し、令和8年度にトキ放鳥を実現するべく、県、能登の4市5町、関係団体が一致結束して取組を加速していくと確認したところです。

この白書は、環境の現状や課題、令和5年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様の理解を深めていただく一助となることを願うとともに、各種の取組について積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いです。

令和6年10月

石川県知事 馳 浩